

2年1組

生まれてきてくれて ありがとう ～うこっけいさんとのくらし～

命はいくらでもあるわけじゃない

9月10日、子どもたちは自分たちの思いや考えを田中さんに伝え、うこっけい卵を迎えることになりました。田中さんの腕に抱えられた卵を見た子どもたちは、歓声を上げ、拍手を送りました。田中さんが、卵を無事にかえすために大切なことを話すと、Aさんは真剣な眼差しでその言葉に耳を傾けていました。はじめは少し離れたところから見ていた子どもたちは、次第に一步、また一步と近づいていき、やがてふ卵器に顔を近づけ、覗き込むようにして中の卵を見つめ続けました。



翌日、子どもたちは登校するとすぐにふ卵器の様子を見に行きました。ランドセルを片付けると、またふ卵器のそばに寄り、卵を覗き込みました。Bさんが「全部生まれなかったらどうしよう」とつぶやくと、Aさんは「一つでも生まれてほしい。15個、全部生まれてほしい」と答えました。すると、Cさんが「見えないけど、今ここにいるよね」と言い、3人で静かにふ卵器を見守っていました。

その後、子どもたちは小屋づくりについて考え始めました。「ひよこさんは33℃くらい必要だからあたたかい小屋にしたい」など、調べたことをもとに意見を出し合い、大きさのバランスを考えながら構想をまとめました。

9月17日、小屋づくりが壁チーム・床チーム・カーテンチームに分かれて始まりました。Aさんは壁チームで、小屋の側面の壁(40cm×80cm)をつくることになりました。Dさんがマジックを持ち、AさんはEさんと一緒に30cmものさしを2つつなげて押さえました。「線書けたよ」と言って私に見せると、線は少し斜めになっていました。私が「斜めに曲がっているよ」と伝え、板をまっすぐに置き直してみると、Aさんは驚き、「これじゃあひよこさんが隙間からにげちゃう。まっすぐにしなきゃ」と言いました。Fさんが算数の授業で紙を折って作った直角を持ってきて「これで直角にしたらまっすぐになるんじゃない」と言うと、Aさんも自分の直角を持ってきて端に置きました。3人で直角に沿ってのさしを置き、線を引き直すと、できあがった壁はきれいな長方形っていました。



9月29日、小屋が完成しました。生まれる予定日まであと2日。子どもたちは卵をのぞき込み、「ひびないかな」「動かないね」とつぶやいていました。Aさんは小さな声で「生まれるかな」と言いながら、じっと見つめていました。

9月30日、教師が教室に入ると、ふ卵器の中で一羽のひよこが生まれていました。次々に来た子どもたちから「かわいい」「やったあ」と歓声があがりました。子どもたちは、このときの気持ちを次のように綴っていました。

ねでいてかわいいうこっけいさん。生まれてきてくれてありがとう。2年1組にとって、とっても大事なとき。大事なこと。うれしい。みんなぶじに生まれるかな。うこっけいさん。(Aさん)



ふ卵器の中には、もう一つひびの入った卵がありました。「ひびが入ってる」「きっともうすぐ生まれる」と子どもたちはその瞬間を待ちました。「がんばれ」「もうすぐ会えるよ」と声をかけました。やがて、ひなが殻を突き破って生まれると、「うわあ、生れた」と歓声と拍手が広がりました。「最高すぎる」「泣いちゃう」と喜びを全身で表し、子どもたちは誕生の瞬間を共に見届けました。その後、さらに2羽が生まれ、4羽のひよこが誕生しました。

翌日、生まれてから丸一日がたったひよこを小屋に移すことになりました。教師がそっと入れると、ひよこは大きな声でぴ

よびよ鳴きました。子どもたちは「いやなのかな」「さみしいのかも」とつぶやき、Aさんも「怖いのかな」と言いました。鳴きやまないため、Gさんの「もどそうよ」という声でふ卵器に戻すと、すぐに鳴きやみました。子どもたちは「ごめんね」「びっくりしたんだね」と小さくつぶやきました。数時間後、3羽と一緒に小屋に入れると、すぐに鳴きやみました。子どもたちは「もうみんな一緒だから大丈夫」と声をかけ、Aさんは微笑みながら、ひよこをやさしく見つめていました。



10月7日、予定日から一週間が過ぎ、田中さんから「もう生まれないかもしない」と聞いた子どもたちは話し合いました。「お墓に入れてあげたい」という声がある一方で、Hさんは「もし土の中で生まれたら生きていけないし、田中さんの言うことが本当とは限らないよ。もう少し待ちたい」と言いました。Iさんが「ひよこさんがいるか、卵にライトを当てて確かめよう」と提案すると、Aさんは「手伝ったり、生きているか確かめたりすることはしたくない。卵をふ卵器から出したら生きられないかもしないし、もし死んじゃっていたら見たくない」と言いました。Jさんは「でも、ずっと待っていて、生まれてこないのを見続けるのもつらい」と話しました。子どもたちは話し合いの末、「あと3日待とう」と決め、静かに見守ることにしました。しかし3日経っても卵はかえらず、お墓にうめようと決めて準備を進めました。

ところが翌日、ふ卵器が傾いて卵が落ち、3つの卵が割れてしまいました。私は動搖し、そのときのことをよく覚えていません。気がつくと、子どもたちと一緒に泣きながら卵の殻を集めていました。泣き叫ぶ子どももいました。ただ静かに見つめている子どももいました。殻を拾い集める子どももいました。割れた卵の中に、ひよこの姿はありませんでした。

その後の話し合いで、Aさんは「命はいくらでもあるわけじゃない。簡単には手に入らないから、それを大切に育ててきたのに、壊れてしまったみたいで悲しかった」と語りました。Kさんは「簡単には生まれてこないから、4羽はよく生まれたなって思う」と言い、Lさんは「4羽は無事に温かく生まれてきてくれたから本当によかった」と話しました。Mさんは「生まれた4羽を大切にして、忘れないようにする。みんなの分も」と続けました。

子どもたちは、手紙や折り紙を添えて、うさぎのくいちゃんのお墓の隣に卵を埋めました。Aさんはお墓に向かって静かに手を合わせていました。卵に添えたAさんの手紙には、こう書かれていきました。

今まであなたかく育ってくれてありがとうございます。死んでしまっても、元気な2年1組の大変な仲間だと思います。本当に、今まで近くにいてくれてありがとうございます。

ひよこが生まれてきてくれた気持ちを歌にしました。

① 田中さんがくれた
小さないのちのたまご
どんな顔をしているかな
どんな声でなくのかな
そつとまつていたよ
そつとまつていたよ
ぶじに生まれてきてね
早く会いたいな

★たくさん いつしょに遊ぼうね
ずっと いつしょにいようね
みんなで 力を合わせて
しあわせにするからね

② ある日 ひびがわれた
くちばしが 見えたよ
うごいたよ！ うごいたよ！
心が ドキドキしたよ
からを つきやぶつて
自分で 生まれたね
ぴよびよびよ ないでいる
かわいい ひよこさん

二年一組に 生まれたよ
ずっとずっと 会いたかつたよ
小さくて あたたかい のち
生まれてくれて ありがとう

子どもたちは、ひよこの「生まれてきた命」と「生まれなかつた卵」と、どちらにも出会いました。「命はいくらでもあるわけじゃないんだよね」「簡単には生まれてこないから、よく生まれてくれたなって思う」
一人ひとりが自分の言葉で、命と向き合っていました。

今、子どもたちは毎日、ひよこの世話をしています。手のひらに伝わるあたたかなぬくもりを感じながら、日に日に大きくなっていく姿を喜んでいます。そして、「もっと広い小屋にしてあげたいな」「もっと安全にいごこちよくすごしてほしいな」と願い、ひよこのために新しい小屋づくりを進めています。

